

文系からエンジニアへ

高校3年生の時に何げなく見ていたテレビで、女性エンジニアがプログラムを組む姿にとても憧れを抱いた。既に文系大学への入学が決まっており、情報系の一般教養の授業もない時代だったため、大学在学中は独学でパソコンの勉強をした。大学卒業後、より専門性を高めようと、思い切って2年制の専門学校に入学し、憧れのプログラムを学んだ。「プログラミングはやるべき事をコンピュータが分かる言葉に書き換えているだけ」と

凛としていきる

# 理系女性の挑戦

## 対話・信頼でシステム構築



気が付き、私のような文系でもこの世界で生きていけると感じた。何よりプログラムが正常に動作した時の達成感に魅力を感じ、IT企業に就職した。しかし、仕事でのプログラミングは甘くな

力不足を痛感させられる日々は続いたが、転職はやつてきた。新入社員へのプログラム指導で高評価を得るこ

とができたのだ。自分が苦労して理解したことをピックアップし、図で示して説明するスタイルが新入社員に好評だった。

このスキルはシステムエンジニア(SE)になった時、お客さまとのやりとりでも生かすことができた。目に見えない複雑な仕組みを言葉や図で表現することで「あなたの資料や説明はとても分かりやすい」と言ってもらえた。お客さまとの信頼関係強化につながる、文系から理系に転身した私の強み

となった。最近はお客さまの部内の飲み会やゴルフに誘って頂き、より親密に接する場も頂けるようになった。プログラムというコンピュータとの対話に慣れて入ったIT業界だったが、システム構築は機械との対話ではなく、お客さまや関係するメンバーとの対話や信頼関係で成り立つ、極めてコミュニケーション能力が重要な仕事だと思っている。当社で16人目の女性管理職となった現在、私も若手社員に追われる立場になった。システムだけでなく人と人との信頼関係も構築できるSEのロールモデルとなるよう、日々勉強中である。

（前列中央が村上さん）

△（火曜日に掲載）

△（火曜日に掲載）

△（火曜日に掲載）



村上 美和

△（火曜日に掲載）